

二〇二一年 コスモス紙上全国大会表彰作品&評 (付・アクロスティック短歌)

全体選 (グループ選表彰対象も併記)

☆二位 (95票+選者3票 計98票)・A組一位 (25票)

飲むための濁りみづ汲むスーダンの子の眸^め真水のやうに光れり
藤田 倫夫

スーダンの子供らの厳しい日常が描かれている。上の句に対して子らの眸が澄んでいると詠われる下の句に救われる。事実がしっかりと伝わる。(田中)

☆二位 (41票+選者7票 計48票)・F組二位 (13票)

すこやかに暮らしていると足裏にスイカの種が付いたりします
大西 淳子*

足裏についた一粒のスイカの種。そこから作者は自らの健勝を感受する。歩く私、食べる私があつてこそその種との出会い。歌が大きい。(原賀)

☆三位 (44票+選者2票 計46票)

おかあさんと明るくわれを呼びとめて息子の妻は母になると言ふ
坪井 真里

明るく呼びとめる声に母になるよろこびがこもっている。初句「おかあさん」を括弧でくくれば助詞の「と」が省略できて定型に収まる。(田中)

☆四位 (42+選者3票 計45票)・H組一位 (16票)

チェロの音は琥珀に熟れてひとつおき空いた席にも霧のごと降る
荒川ゆみ子*

感染対策のされた会場でチェロの独奏を聴いている場面が描かれている。二句結句の比喻表現がとても優れている。(鈴木)

☆四位 (38票+選者7票 計45票)

さみしさの「さ」をこぼしたらみしみしと我が家の梁の折れる気がする
岩井かほる

「さみしい」から「さ」を取り去ったら「みしい」。そこから「みしみし」を連想する作者。「梁」は一家の主でもある人のことか。(津金)

☆六位 (37票+選者2票 計39)・D組二位 (12票)

その場所を愛せし人のみし記憶いまでも鮮し木漏れ日の椅子
矢沢 靖江

読者の心に静かに深く届く歌。鮮やかで大切な記憶なのである。表現の仕方も好ましい。(狩野)

☆七位 (32票+選者2票 計34)・D組二位 (12票)

たんぼぼの冠毛の旅見送りてさあ帰らうか車椅子押す
岡田 万樹

たんぼぼの軽やかな旅立ちには、大きな勇気を与えてくれた。さわやかで読者にも元気をくれる一首。(桑原)

グループ選

(順位は選者票の数を含まないで決定したもの)
*スペースの関係で二位以下は評を省略。

虫愛ずる柔き幼な手蠅螂のふり上げし鎌をにぎらん
とする
前川 加代*

☆A組一位 藤田倫夫(作品既出)

☆C組一位(13票)

☆A組二位(16票)

たまきはる余命を生きる友の書く受刑者宛てのパー
スデイカード
印出美由紀

さみどりの日傘を畳み笑む母のまぼろしに会うことだ
ま霊園
高橋みどり*

余命宣告という重大事態を受け入れた友の誕生祝を書くという
行為。宛先は、率直に祝福されるのが難しい受刑者たち。その
事実の重さ。(津金)

☆A組三位(15票)

☆C組二位(12票)

点滴の光るしずくの終わるまで風吹き荒れる闇の声
聞く
人見 江一*

笑ひ声ひとつ聞かせて事足りり一日おきの娘の電話
鮎川 清

☆B組一位(18票)

☆C組三位(11票)

亡き祖母の箆笥に住みて今もなほ一生を語る髪飾り
たち
内藤 丈子

四句目までは何も分からぬまま読み進むが、結句であったと驚か
される。「髪飾りたち」の語が祖母の一生を照らし出し、華麗
な一首が誕生した。(高野)

泣き塩と母は言ひにきつゆ湿る塩つかみつつ梅を漬
けゆく
三芳 公子

☆B組二位(12票)

☆D組一位(16票)

寝る前にユーチューブで聞く「時そば」の昨日と同
じところで笑ふ
佐藤 紀子

立ち止まり防災無線のきれぎれの言葉をつなぐ風つ
よき路地
石井由美子

☆B組三位(9票)

もぢずりの穂先にバンパー触れぬやう常より手前に
子は駐車せり
島本 敏子

今や防災無線の時代と言える。無線の放送内容確認の歌。結句
を踏まえて読めば、まさに真に迫る歌内容である。(狩野)

☆D組二位(15票)

岡田 万樹 (作品既出)

矢沢 靖江 (作品既出)

☆E組一位 (14票)

子に残すもののひとつと「古い」を見す迷惑掛けぬ
などとは言はず 関川 洋子

「古い」を「子に残すもののひとつ」だと言う。この覚悟に至るまでの時間と心理を思う。厳しさが、この歌の深さでもある。
(小島)

☆E組二位 (11票)

まだ息のある落蟬を銜え込むオオスズメバチ肉食の
面 藤岡 嘉明*

水あそびする子らの声かがやきて夏の形の雲そだち
ゆく 池田 恭子

☆F組一位 (14票)

涼風に切れ目のありて風鈴が鳴りて止まりて止まり
て鳴れり 木原 師子

「涼風に切れ目のありて」が作者ならではの発見。それを支える下の句の表現が巧みで、言葉の繰り返し返しが独自のリズムを生み出している。(松尾)

☆F組二位 (13票)

大西 淳子 (作品既出)

☆F組三位 (12票)

悲しまず恋も悲しむ恋もせず羅うすものしまう左手に秋
船岡 みさ

☆G組一位 (14票)

人住まぬ生家の納戸に吊られをりちゃんばらごつこ
の刀のはたき 小野はつね

読者の郷愁を呼ぶ歌。「納戸」「ちゃんばらごつこ」「はたき」と懐かしい語句が揃う。風呂敷をなびかせ、はたきで戦う男の子らが浮かぶ。(水上比)

☆G組二位 (13票)

さまざまな思ひ出忘れゆく夫の「ただいま」と呼
ぶ声は変はらず 高島紀代子

☆G組三位 (12票)

ヘッドホンつけて若きが代掻きす峡の田にひとり緑
に染まり 高山 幸子*

☆H組一位 (16票)

荒川ゆみ子 (作品既出)

☆H組二位 (12票)

雨あがる筑前波多江白南風は野より海へと息ながく
吹く 有中 房子

☆H組三位 (10票)

米の値の日々あがりくる戦後の夜農継がざるを父に
告げにき 日岡 金一

☆I組一位 (14票)

みちのくの小さき山里お齒黒の祖母すむ家にマンド
リンありき 滝口 良子

昔々のみちのくの山里に遊ぶような気がした。どのような家だ
ったのだろうか?どんな祖母だったのだろうか? これから物語が
生まれそうな歌。(小山)

☆I組二位 (12票)

青き実は音符のやうだララララミニトマトへの水
やりはづむ 荒巻 睦代

青海波の模様に似たるへぎ蕎麦のポスターを見て暖
簾をくぐる 星野 武二

酒冷やし鰻あたたむコロナ禍に金婚式を迎へたる宵
赤石 智子

☆J組一位 (14票)

わが爪のひそかに伸びる夏の夜はポテトチップス極
薄つまむ 石川 淳子*

ポテトチップスも箸で食べる昨今。でも、ちよつと伸びた爪で
つまむ極薄ポテチは夏の夜の気怠さと相俟ってなかなか美味し
そうだ。(藤野)

☆J組二位 (12票)

仲がいいわけじゃないのに体育後わたしにもくれた
ウエットシート 中村 恵*

☆J組三位 (11票)

晩年の伴侶の日記妻われの「機嫌悪し」と書くひと
日あり 横山 裕子

いくたびも背すぢ伸ばしぬ皆さんや我がわれ見るZ
o o m 歌会で 千明 武紀

高野賞 (高野公彦選の六名)

☆日ごと増すプラスチックが集まりてへ太平洋のス
ープの具となる 鈴木 文子

☆六百の筋肉ありて笑ふとき十七使ふほかは動かず
水辺 あお

☆ポーヴォワールの「老い」をするどく読み解ける上
野千鶴子の赤毛かはいい 黒田 邦子

☆密さけて船に揺れる島人しまんちゆうら三線さんしん・手拍子・歌ふ
声なし 丸山 克介

☆内藤 丈子 (作品既出)

☆関川 洋子 (作品既出)

スバル作家によるアクロステイック短歌

【はじめに】昨年は詠草集の巻頭を飾るイベントとして「尻取り短歌」を實行したが、今年
は「アクロステイック短歌」に挑戦することにした。アクロステイック短歌とは、決めら
れた文字で始まる短歌を詠む、という言葉遊びの一種である。今回は宮柵二作品「英雄で
吾ら無きゆゑ暗くとも苦しとも耐へて今日に従ふ」（えいいうでわれらなきゆゑくらくと
もくるしともたへてけふにしたがふ₃₂字）の一字一字を頭に置いて三十二人の作者が歌
を詠んだ。これら三十二首の歌の連なりが元歌の宮柵二作品をどう反映しているか、ある
いは令和三年の時代をどう反映しているか、皆さんどうかゆつくりお読みになってくださ
い。なお、三十二名の内訳は〈選者及び編集人〉二十二名のほか、今回大会に参加された
（もと選者及びコスモス賞受賞者）十名の方々です。（高野）

え₂ エクスペクト・パトロナム！この星の守護靈^ま在さば今し出で来よ

い₂ 一つの間にカルビ無くば呼べぬ名が増えぬ（太郎、花子）のひびき懐かし

い₂ 命より重きものなし さは言へど問はれてをりぬ命の順位

う₂ ウイルスをしんそこ憎む 甲子園試合辞退の球児ら思ひて

で₂ 泥中の蓮なるべしおもちちはなれ異国へむかふプリンセス

わ₂ わんゆんと歪む天気図 五輪後の列島は雨堪へて生きゆく

れ₂ 記録^{レコード}はあらず二人は走らずに終はつた男子リレー四百

ら₂ 来年は会いましょうねと言つたのに桜が終わりカンナが終わる

な₂ 夏の海泳ぎに行くなコロナ禍のコロナ下の密避けねばならぬ

き₂ きれぎれの小雨が夢を濡らしゆくようにおぼるな（緊急事態）

ゆ₂ ゆらゆらに心は揺らぐ（今）といふ読み解き難き時代を追ひて

桑原 正紀

後藤 美子

福士 りか

斉藤 梢

田中 愛子

影山 一男

風間 博夫

大西 淳子

奥村 晃作

大松 達知

狩野 一男

系 遠方より朋来たるごと秋はきてバターの香るオムレツを焼く
 く 挫げざる超巨大ガイア熱発す ふえてやまない〈ヒト類〉かかへ
 ら 羅生門を思はず夜の都庁ビルアラート赤く点灯されて
 く クーラーを付けつばなしの夏にして原発を匿すコロナの両手
 と 〓とがのきのいやつぎつぎに変異するウイルスに無策なる菅筵
 も 〓もごもごと首相会見で答弁す土竜のやうな眼をしたをとこ
 く 〓草原に落ちてゐる靴 戦争はゆめものがたりものがたるゆめ
 る 〓瑠璃光の美しき原始銀河ありわれらを目守る如来とおもふ
 し 〓詩・音楽競ふ種目もありしとぞ古代ギリシャのオリンピックよ
 と 〓飛び乗つたバスは過ぎたりさきをととひワクチン打ちし武道場まへ
 も 〓物忌ものいみにあらぬ籠もり居するうちに春、夏、秋、冬、春、夏が過ぐ
 た 〓啄木は西へ西へと行かずして北へ北へと行きて死にたり
 へ 〓へそのなき蛙よへそのある猫よ朝日のなかのラ・ヴィータ、ラ・ヴィータ
 て 〓靦面に効く葉さへあるならばこの世の人の苦しみ消えん
 け 〓けうとげに式典の辞を読む総理「核なき世界」をするりと飛ばす
 ふ 〓ふりつづく雨ふえつづく感染者陥おちてはならず負のスパイラル
 に 〓煮詰まりし企画をあつさりチャラにする天下無敵の新型ウイルス
 し 〓白マスクしんと馴染みぬ県境といふ崖きりかきを鳥はかるく越ゆ
 た 〓たましひは照り葉のなかに熟れゆかん斎庭に立てるオガタマノキの
 が 〓〈ガンバレ〉と〈ガマン〉ばかりを聞いた夏、気づけば首都圏医療崩壊
 ふ 〓不幸とは長居せぬものゆるやかにコロナ禍去らむ あびらうんけん

小島ゆかり
 千明 武紀
 水上比呂美
 原賀 璣子
 松尾 祥子
 水上 芙季
 小島 なお
 清水 正子
 宮里 信輝
 津金 規雄
 田宮 朋子
 橘 芳園
 小田部雅子
 鈴木 竹志
 森田 治生
 木畑 紀子
 小山富紀子
 鈴木千登世
 藤野 早苗
 大野 英子
 高野 公彦